

ジェロントロジーに係る体系的研究の趣旨について

【目次】

1. 本研究の基本的考え方・目指す成果
2. 研究対象フィールド
3. 参画のプラットフォームづくりの視点
4. 今後のスケジュール(予定)

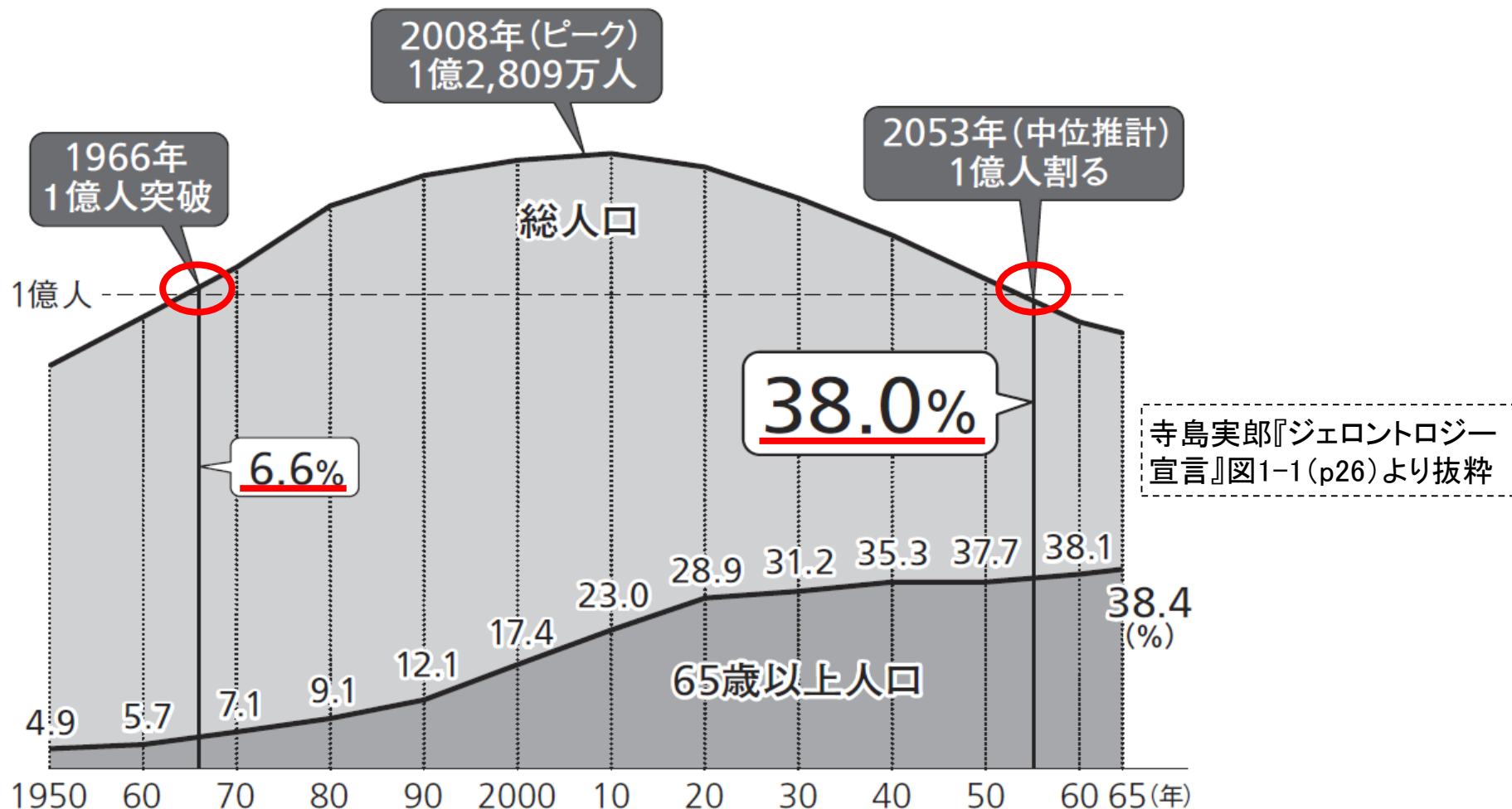
2018年10月

ジェロントロジー研究協議会事務局

1. 本研究の基本的考え方・目指す成果

前提となる認識:「異次元の高齢化」

- ・人口1億人:1966年時と2053年時の人口構造は大きく異なる(2053年には約4割が高齢者)
- ⇒社会システムや一人ひとりの生き方を大きく変革するためのパラダイム転換が必要



出典:2015年以前人口:総務省「国勢調査」。2020年以降人口:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生・死亡中位仮定による推計。

1. 本研究の基本的考え方・目指す成果

基本的考え方

◆ ジェロントロジー＝「高齡化社会工学」

- － 高齡者を「社会を支える側に参画する主体」と捉え、そのためのプラットフォームづくりや新たな社会システムの構築を目指す

本研究(2年間)で目指す成果

◆ 高齡者の社会参画のためのプラットフォーム

- － 新たな社会的事業
- － 人材育成プログラム(資格認定制度)

の事業体

◆ 高齡化社会における新たな社会システムの提示

- － 地域(コミュニティ)、市場(マーケット)、法制度等

2. 研究対象フィールド

◆ 国道16号線沿い地域 (主に多摩地域)

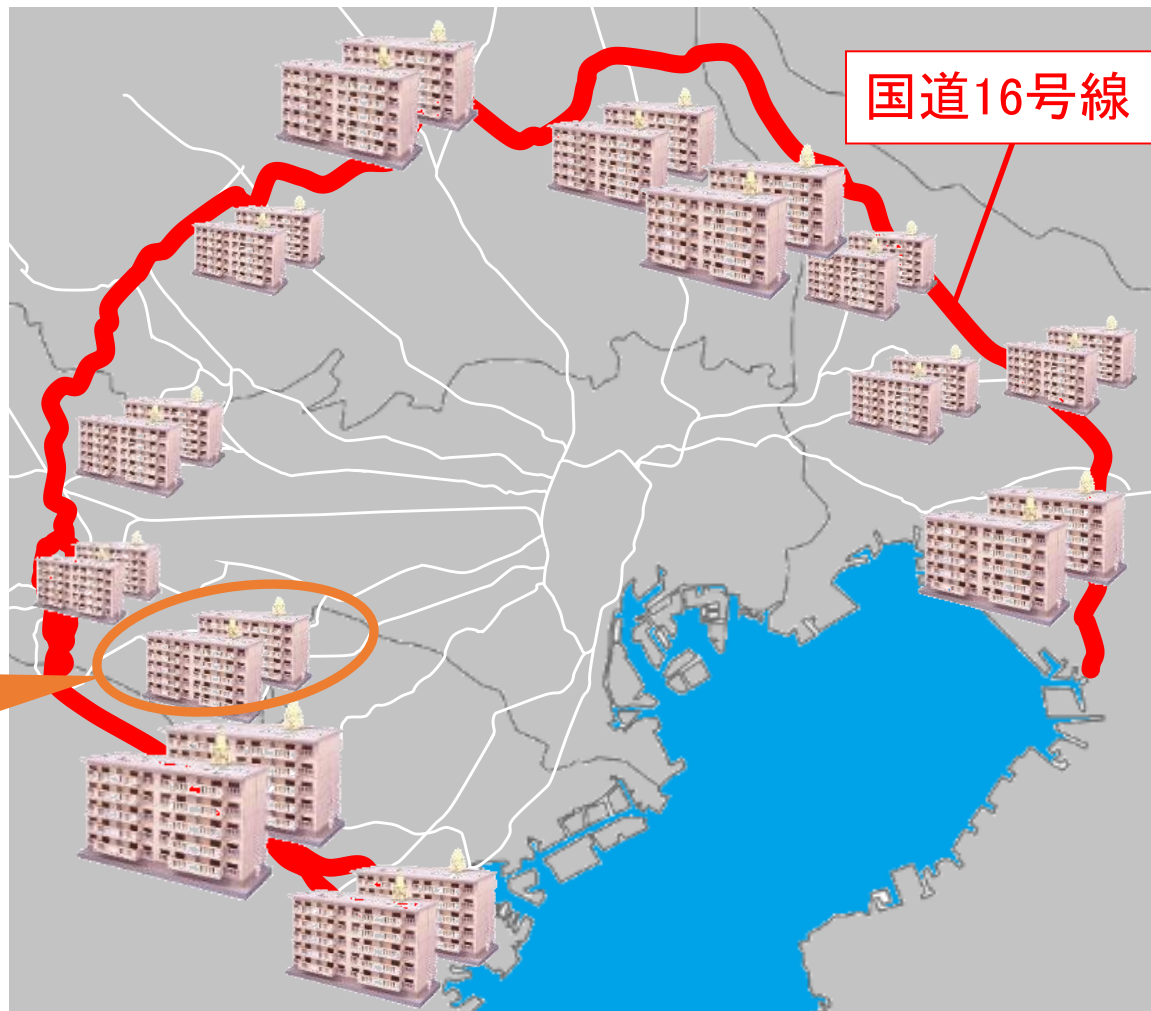
- 参画のプラットフォームづくりに向けた 多摩地域調査を実施

国道16線沿い地域全体

	高齢者人口	高齢者率
2015年	236.9万人	24.8%
2045年	308.7万人	36.2%

多摩市

	高齢者人口	高齢者率
2015年	38,888人	26.5%
2045年	49,733人	40.7%

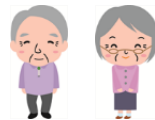


出典:「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

2. 研究対象フィールド

基本的考え方

国道16号線沿いの高齢者(主に60代~70代)



- 仕事を辞めてやることがない
- 老いることや死に向かうこと、孤独感などが不安
- 地方にいる老親が心配

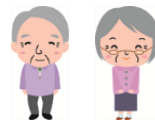
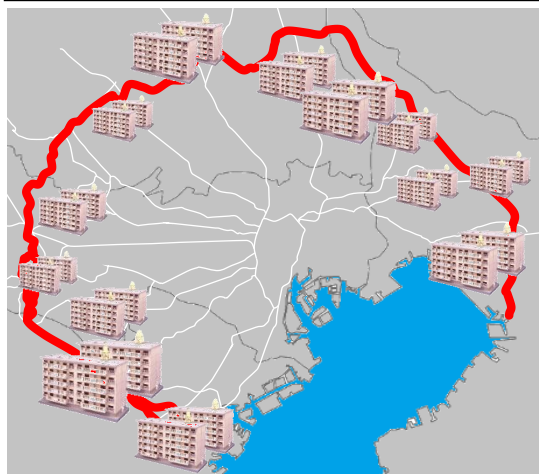
地方(新潟等)にいる老親(90代以上)



- 老親の世話をどうするか(都市に呼ぶと「呼び寄せの悲劇」)
- 生活費、資産の管理をどうするか

課題解決のためのプラットフォームの検討・推進(ジェロントロジーの視点から)

国道16号線沿いの高齢者(主に60代~70代)



農業 観光
(複数地域居住)

- 仕事を辞めてやることがない
- 老いることや死に向かうこと、孤独感などが不安

➔ **宗教**

- 地方にいる老親が心配

地方(新潟等)にいる老親(90代以上)



- 老親の世話をどうするか(都市に呼ぶと「呼び寄せの悲劇」)

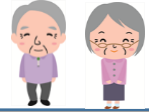
➔ **美容 医療** (ふるさと納税等でサポート)

- 生活費、資産の管理をどうするか

➔ **金融**

3. 参画のプラットフォーム(Opportunity)づくりの視点 ~6分野の構図~

高齢者



参画のプラットフォーム

生活に関わる分野

(身の回りの心配事を軽減したい)

こころ

からだ

おかね

宗教

医療

美容

金融

支援

ICT

社会参画に関わる分野

(社会に貢献したい)

つとめ

農業

観光

支援

相互に影響

知の再武装の「場・仕組みづくり」

「100歳人生」における生き方の再構築

4. 今後のスケジュール(予定)

